農業経営者になる！

佐々木聖・文　市毛康夫・写真

七人の神様から教えてもらう イチゴの味

さがほのかを栽培する児玉憲彦さん。
「早く“味の神様”に追いつきたい」

大分県臼杵市でイチゴ農家を営む児玉憲彦さんには「七人の神様」がいる。地元では名の知れたイチゴ農家のベテランたちだ。

「土の神様、苗の神様、肥料の神様、天気の神様……それぞれスペシャリストが違います。時に何を言ってるのかぼくにはわからないくらい、経験に裏付けられた知識が深い」と児玉さんは何かにつけて頼みの綱にしている。

10年間の陸上自衛隊時代、競技大会で優勝できなかったとき隊長から言われた言葉が忘れられない。「０％から99％までの努力は０と同じ。賞状を取って初めて１００になる」

七人の神様たちは「自然が相手やけん、成り行きまかせやなあ」と口では言うものの、天候などが悪条件の年にも収穫量を減らさず売上を維持する。「どんな状況であっても力を１００％出し切って結果を出す。それはどの世界でも同じ」と、児玉さんは痛感した。

児玉憲彦さん（40）
福岡大学を卒業後、陸上自衛隊へ。
別府で教育を受け、沖縄に赴任。
第6高射特科群に所属。
平成20年、30歳で退職

夏休みが長い！ イチゴ農家児玉さんの年間スケジュール

2月 ← 9月 ← 6月 ← 11月

少し 忙

定植期（9月中旬～）
栽培管理期～収穫期

苗や葉っぱの状態に合わせて、肥料をこまめにあげる

長い夏休み！ 楽

育苗期（6月中旬～9月中旬）
苗を育てる

基本的にはのんびり、神様に教えを請う。趣味の釣りを楽しむ！

かなり 忙

収穫期（11月～6月中旬）
イチゴの手摘み

家族３人（両親と自分）で毎日３時間手摘みしてパック詰め

かつて祖父のタバコ畑だった見晴らしのいい丘に広がる20アール（2000㎡）のイチゴ高設栽培ビニールハウス。苗は別棟で育てる

イチゴの高設栽培の液肥は葉と茎と根それぞれ別で、日照時間など自然条件に応じて微妙な調節がいる。病気とダニなどの害虫が大敵

ビニールハウスの高設イチゴ栽培は設備投資額が大きい。10アール（1000㎡）あたり2000万円以上といわれている。20アールの耕地面積の児玉さんの場合、土地こそ祖父から受け継ぎ資金援助もあったが、JAバンクの農業近代化資金3000万円の借り入れ（8年で返済予定）でスタートした。4年目の現在、ざっと売上は1000万円、経費を引いた所得は500万円。借金も半額返済し、順調に業績は推移しているといってよい。

「3月時季には1回で1000パック出荷するすごい親方も。今のところぼくのベストが600～700パックくらい。いずれは追いつきたいですね」と意欲を燃やしている。

臼津地域農業青年組織の副会長を務める児玉さん。青年組織の集会で大分支部にいる同期の自衛隊OBと「退職者をどんどん農業に呼び込みたい」と話したという。「空いている土地を貸したい人は多いんです。農家に若手がいないので畑に手が回っていません。空き家バンクなどの制度で家も安く借りられるし。縁あって土地を借りられるなら、農業法人などに就職して回り道するより、すぐ就農したほうがいいと思います。自衛隊と同じように体を動かす職業に就きたい人は、ぜひとも農業へ！」と、児玉さんは力強く誘ってくれた。

Q/A

Q 転職を意識したのはいつ？
29歳のころ。葉タバコ農家を廃業する母方の祖父から「農業やらんか？」と誘われ、どうしようか迷い始めた。

Q 就農を決断したのはなぜ？
後継ぎ候補だった親戚は全員デスクワーク。体を使い仕事をする農業にいちばん向いているのは自分だと思った。

Q 農業をどうやって学んだ？
32歳までは自己流で中途半端に野菜づくり。反省し、大分県立農業大学校で若い子らに交じり一から勉強し直した。

Q なぜイチゴを選んだ？
初期投資は大きいが人に喜ばれ頑張れば収益が上がる作物。借金しても初志貫徹、と家族からも背中を押された。

Q 自衛隊でのどんな経験が活きる？
他部隊との連携が大切な部署だったので各分野のエキスパートに何でも尋ねた。農業でも同じことをしている。

Q 農業を目指す後輩に一言
困ったとき相談できる親方を最低5人は探す。1年目はあまり欲を出さず、教わったことをただがむしゃらに！